

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100038		
法人名	メディカル・ケアサービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームことづか れんげ草		
所在地	岐阜県岐阜市琴塚1-7-12		
自己評価作成日	令和 2年10月31日	評価結果市町村受理日	令和 3年 3月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190100038-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和 2年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年にはコロナ禍の中殆ど外部の方との接触を控えてきました。その中でいかに利用者様にストレスを感じない様、季節行事を行い楽しんで頂けたらとの思いで継続する事が出来ました。この大変な時期に100歳を迎えられた方もお見えになり、百寿の会をご家族様と共に迎える事が出来ました。フロアではなく相談室で行い狭い空間の中で盛大に行う事が出来ました。ほんの一瞬の喜びではありましたがご家族様の胸に響いて頂けたと思います。その他、手指消毒、うがいの徹底を図り職員や利用者様と共に現在まで乗り切る事が出来ましたので気を緩めず対応出来ればと考えています。昨年には防災改修にて手洗い場を玄関先に設置する事が出来ましたので、外部の方の手指消毒が手軽にでき感染予防対策が出来る様になりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員はいつも笑顔で利用者と同じ目線に立つよう心掛け、受容を大切にして対応している。なかなか外にでることが難しい状況の中でも、ホームでの楽しさを提供できるようにイベントに力を入れており、明るいホームを実現している。
利用者本位を實踐しており、利用者から食べたいものを聞き提供したり、利用者の意向を実現できるように職員が話し合っている。家族との面会や研修、従業員面談においてWebの活用が進んでおり、感染対策を取りながら、これまで行ってきた取り組みを継続して行えるように環境を整えている。
職員は口々に「利用者楽しんでもらいたい」と笑顔で話しており、利用者一人ひとりに向き合い日々の業務に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ことづか独自の理念は継続している。	理念を廊下に掲示し、唱和もすることでチームで理念に沿ったケアができるように取り組んでいる。新人スタッフには個別で理念について指導が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は殆ど関わる事は出来なかったが近隣の方との挨拶は欠かさず行っている。	コロナ禍で地域住民とのかかわりが難しくなっているが、散歩に出た際に挨拶をするなど、今できることに着目し実践することで、今後の地域とホームの関係を見据えた活動に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年はコロナ禍であり、認知症サポーター講座等を地域の方に向けて行う事が出来なかったが近隣事業所への働きかけは行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で集合しての開催は出来ていないが、各事業所宛に運営推進会議議事録とアンケートを提出する事により、ご意見を頂戴する事が出来ている。	行政の指導に従って書面での開催が続けられている。利用者家族にはアンケートを送り、意見を聞いている。行政に対し議事録の提出をしており、できる限りの取り組みが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政に書類等提出の際、ご意見を頂いている。	行政や包括支援センターとのやり取りをメールで行うことで、連携を継続している。関係機関からの情報がメールでのやり取りが中心となっており、情報の共有が記録として残るようになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	品質管理課より定期的に不適切ケアの研修を行い、職員全体が身体拘束や、虐待についての理解を絶えず求められている。	研修を行い何が身体拘束に当たるのかということチームで話し合っている。チェック表を活用して細かく振り返りを行っている。自立支援に力を入れており、減薬への取り組みもある。3か月に1度スタッフが聞き取りをして、虐待につながる事例はないか確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケア項目について話し合いが随時行われ、3ヶ月に1回は委員会にて会議が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修等により学ぶ機会は設けている。 ホーム内にて後見人対応の方が2名お見えになる為、その都度書類作成等お手伝いしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様に理解して頂く様、充分時間を取りながら、説明をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為今年は、ご家族様アンケートを行う事は出来なかったが、ご意見箱やWEB面会等を中心に行い、ケアプラン送付時等にもご意見を頂く様にしている。	利用者家族から意見をもらえるようにWeb面会を取り入れるといった工夫がされている。写真付きの広報誌を送付し、利用者家族との情報共有にも努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より職員からの意見交換を行う機会は設けており、改善策があれば反映するように心がけている。	一対一の職員との面談をオンラインで開催しており、職員からの意見を積極的に聞き取っている。リーダーを中心にユニット会議やミーティングを行うことで活発な意見交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度が設けられ、給与水準も上がってきた為、各自向上心を持ち働ける様な環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が資格取得制度を設け、外部研修などにも参加できる様支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為今年は社会資源として相互間の活動は出来なかったが、地域包括や地域の病院等との連携は図れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント及びフェースシート等にて、ご本人の情報収集を行い、要望に耳を傾けながら、良好な関係が築ける様配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期のアセスメントにて相手のご意見を参考に話し合いが行われ今後に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントにて暫定プランを作成し、必要な支援内容を見極めながら、対応できる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がご自分のペースで動ける様支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙、メール、WEB面会等によりご家族様との関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年はコロナの関係で直接の面会が出来なかったですが、お便り等で関係を継続出来る様に支援している。	知人・友人がホームに訪ねてくることがあったがコロナ禍でそれが難しくなっている。それでも関係を途切れさせない取り組みをホームでしており、孫との関係を手紙で継続したり、利用者同士での新たなふれあいが増えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様に職員からの話しかけを増やし、関係性を深める様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後自宅に戻られた方がみえ、自宅での過ごし方等についてアドバイスをできるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々のニーズについての意見交換を行いケアに活かしている。	アセスメントは半年に一回行われており、利用者から直接聞き取りをしたり、ケアマネからの意見を取り入れて、それをユニット会議で話し合いケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスやご家族様からの聞き取りの中から状況把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自分のペースで過ごせ現在の能力を維持できる様配慮をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、その方に添った介護計画を作成している。	理学療法士と話し合い明確に数値目標を定めてプランを作っている。利用者の体重、歩行、筋力、意欲など、様々な視点で目標達成の方向性が検討されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録がすべて電子化になり、把握作業まで及んでいないのが現状。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	モニタリングを活用し、職員との話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中地域資源の活用が殆ど出来なかったが、散歩などは密にならない様出かける事が出来た。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回の往診もコロナ禍の中Webという話もあったが直接往診に来て頂くことが出来、受診の際も消毒、マスクを欠かさずはめることが出来た。	月二回の往診があり、協力医にかかる場合はスタッフで対応している。主治医にかかる場合は家族が対応している。看護との連携がよくとれており、24時間オンコール体制がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護ですが、心配な点はその都度お聞きしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめな面会を行い早期退院に向け医師との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には早めにご相談をし、重度化した場合は主治医と連携を図りながら、看取りのご相談をしている。	看取り指針が用意されており、家族に説明し理解を得たうえで、方向性を共に話し合っている。医師等の連携もしっかり出来ており、職員の看取りに対するストレスは比較的軽度で抑えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルが各フロアに貼ってあり、定期的に職員が対応できる様指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は消防訓練を行い、年1回は消防署立会いの下訓練を行い全職員に周知している。災害時の食品等常備し自治会との協力体制も整っている。	ハザードマップでは被害は限定的とされる地域にホームがあり、災害時は法人本部から物資が送られてくる段取りが組まれている。停電用に懐中電灯やランタンも備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケアに関しては、毎月の様に確認を行い、利用者様の尊厳を重んじている。	法人独自の研修マニュアルを使い研修が行われている。不適切なケアが行われていたときは、その都度直すよう指導されている。利用者との距離は近づきすぎないよう職員同士気を配りながらケアにあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の意志を伝える事が出来る方に関しては、その都度意思確認を行っている。出来ない方に方に関しては、意志確認を行い表情にて判断させて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段の生活リズムを把握しご本人のペースに合わせた支援が出来る様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日清潔なものに着替え、意志決定できる方はご自身で身だしなみを整える事が出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人が作成した献立に添い調理職員が調理を行っているが、誕生日やイベントがある時は、利用者様のお好きな物をお聞きしたりしながら提供。片付けなどは役割として参加して頂いている。	利用者が下ごしらえの手伝いをして、昼、夕飯は手作りのものが提供されている。誕生日には本人からのリクエストを聞いている。利用者ごとの好みの把握は日頃の会話や残食から判断している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録が電子化になり、水分量や、食事量等把握しやすくなっている。現在ミキサー食の方はみえないが、その方の食の形状を考え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回ははる歯科による口腔ケアを行い、日々のケアに関してはご自分で行って頂いている。出来ない方に方に関しては都度ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けを行いトイレ誘導を行い、重度の方に関しても腹圧をかけ、排便を促している。	排泄に関する研修を行っており、羞恥心やプライバシーに配慮したケアが行われている。夜間の対応では、尿量を測ってそれぞれの利用者に合わせてパットに変更している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握を行い、起床時に水分提供を行う様に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の間隔があかない様配慮している。 週2回希望入浴日を設け、入りたい方のご意見を頂戴している。	心地よい入浴を提供するため入浴剤を使用している。菖蒲湯など季節を感じられる工夫もされている。入浴を拒否する利用者には時間を空けて声掛けしたり日を改めるなど利用者のタイミングに合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本自立の方に関しては、自由な時間で動いて頂いており、好きな時間に居室に行かれ休息をしてみえる。自立ではない方についても体調を考え休息時間を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤師との連携を図り、変更や疑問点についてはご質問させて頂いたり、服薬介助については各自服薬事故が起きない様に配慮し2名の職員で確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事として毎月1回は大きなイベントを行い利用者様に喜んで頂いている。個々の状態に合わせ、役割や、楽しみに参加できる様配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中外出支援が殆ど出来ず、近隣の散歩程度にとどまった。10月に入り散歩以外に喫茶店など接触が少ない場所への外出を少しずつ再開してきている。	コロナ禍でも消毒を徹底しながら定期的に近隣の散歩を行い、利用者にも今できることを共に行うよう努めている。今後を見据えて季節に合わせたイベントを計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては事務管理を行っているが、買い物等の支払いの際は、値段等を気にしながら買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話要求される方に関しては、ご家族様へ連絡をしている。手紙やはがきを書きましようとするが、興味を示さない方が多い。(届いたハガキには目を通してみえる。)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物を掲示し、季節感を理解して頂ける様配慮している。共有スペースでは安全を考慮し、混乱を招かない様に、最低限の家具のみを配置している。	廊下に従業員の顔写真が貼ってあり、利用者とその家族に親しみを持ってもらえるような工夫がされている。従業員の描いた利用者の似顔絵が飾られており、心地よい空間が演出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアではトラブルに発展しない様に席替えは慎重に行っている。気の合った方同士自由にお話を楽しんだり、一緒に行動したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にお話をさせて頂き、落ち着いた環境作りの為に、なじみの物が配置できる様伝えている。	利用者は自由に馴染みのものを持ち込むことができ、収納も十分に確保されていることで、事故が起きにくいよう安全な動線を確保できるような工夫がされている。掃除は従業員により行われており、衛生的な環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	前期より自立支援介護への取り組みを行い、水分、食事量、血液データ等の統計を取りながら少しでも薬を減らしたり、表情の変化、状態の変化など確認しながら良い状態で過せる様に支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100038		
法人名	メディカル・ケアサービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームことづか いちいの木		
所在地	岐阜県岐阜市琴塚1-7-12		
自己評価作成日	令和 2年10月31日	評価結果市町村受理日	令和 3年 3月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190100038-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和 2年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の中ご家族との面会の制限や外部の方との接触を控えることで当初はイライラされる様子もみられました。ご家族との外出は減りましたが、少しでもホームでの生活を楽しんでもらえるように季節の掲示物をつくったり、行事を行う事で落ち着かれてきたように思います。日用品の郵送物を嬉しそうに開けたり、手紙をじっくり読まれる姿を見ることができました。散歩に出かけることで少しでも気分転換が図れたかと思えます。その他、手指消毒、うがいの徹底を図り職員や利用者様と共に現在まで乗り切る事が出来ましたので気を緩めず対応出来ればと考えています。昨年には防災改修にて手洗い場を玄関先に設置する事が出来ましたので外部の方の手指消毒が手軽にできる様になり感染対策を図って参りたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ことづか独自の理念は継続している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は殆ど関わる事は出来なかったが、隣近所の方や近隣の方と挨拶をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人に向けてという事は行っていないが、他ホームとの支援方法の意見交換はしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの関係で実際の開催は出来ていないが、各事業所に運営推進会議内容を提出し、それぞれの意見をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政に書類などの提出の際、意見などをいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしているが、本社からの資料を使い定期的に不適切ケアの研修を行っている。職員全体が身体拘束や、虐待について正しく理解し、工夫しながら取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月に1回不適切ケア項目について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本社からの研修資料を使い学ぶ機会は設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様に理解して頂く様、十分時間を取りながら説明をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年のご家族様アンケートを行う事は出来なかったが、ご意見箱やWEB面会等を行ったケアプラン送付時等に希望を伺ったりしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフアンケートやカンファレンスにて自由に意見交換する場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度があり、それぞれの希望に添えるようになってきている。資格取得など職員も向上心を持つことが出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社からの研修資料を使ったホーム内研修や外部研修などにも参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年社会資源としての見学は出来なかったが、地域包括や地域の病院等との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の事前アセスメントで生活歴やこれからの希望などをお聞きし、すこしでも良好な関係が築ける様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時に今までの生活で困っていたことやこれからの希望をお聞きしながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に必要になるであろうサービスやケアをアセスメントで見極めながら対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることはなるべくしてもらえようように声かけし一緒に取り組めるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙、メール、WEB面会等によりご家族様との関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年はコロナの関係で直接の面会が出来なかったがご便り等で関係を継続出来る様に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	上手く話しが出来ない方は仲裁したり、職員からの話しかけを増やし、関係性を深められるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養などに入居されても営業などの訪問時に様子を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から本人の希望を聞き取ったり、くみ取れるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人との会話の中から今までの暮らし方や経過など状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自分のペースで過ごせるように配慮しながら、個々の有する能力を活かせるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、介護計画を見直しながら、それぞれの意見を取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をスマホに記録している。個別のケアで上手くいった方法、出来なかったことをお互いに話ながら情報を交換しながら共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンスでの話し合いでのアイデアやその時々発生したニーズに対応しながら柔軟な支援ができるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナで地域資源の活用はほとんど出来なかった。散歩などは密にならないよう出かける事が出来た。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回の往診もコロナ禍の中Webという話もあったが直接往診に来ていただくことができた。受診の際も消毒、マスクをかかさずはめることができた。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護をりようしている。気になったことを伝えるとその都度アドバイスなどを頂ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめな面会を行い早期退院に向け医師との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は主治医と連携を図りながら、状態を早めにご家族に伝えながら今後のことを検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルが各フロアに貼ってあり、全員が対応できる様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は消防訓練を行い、年1回は消防署立会いの下行い全員の職員に周知している。災害時の食品等常備し自治会との協力体制も整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケアに関しては、毎月のように確認を行い、利用者様の尊厳を重んじている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ささいなことだが、水分提供時にいくつかの中から何が飲みたいか希望を聞いたり、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段の生活リズムを把握し、その人のペースに合わせた支援が出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日清潔なものに着替え、意志決定できる方は服を選んだり身だしなみを整える事が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本社が作成した献立表に添い調理職員が調理を行っている。お休みの日などは職員が調理するのでその時に切ったり、いためたりと出来そうなことをお願いして一緒に取り組める時はしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録が電子化になり、水分量や、食事量等把握しやすくなっている。一口にきるなど食べやすくして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回ははる歯科による口腔ケアを行い、日々のケアに関してはご自分で行って頂いている。出来ない方に方に関して都度ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けを行いトイレ誘導を行い、重度の方に関しても腹圧をかけ、排便を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく水分を取っていただけるように水分量の把握を行い、特に起床時に水分提供できるように配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回希望入浴日を設け、入りたい方の希望をきいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立している方は自由な時間で動いており、好きな時間に居室に行かれ休息をしてみえる。自立ではない方に関しても体調を考えながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤師との連携を図り、変更や疑問点等についてはご質問させて頂いたり、服薬介助については各自服薬事故が起きない様に配慮し2名の職員で確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事では毎月1回大きなイベントを行い利用者様に喜んで頂いている。個人個人の状態に合わせ、役割や楽しみ等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今年はコロナ禍の中外出支援がほとんど出来ず、近隣の散歩程度しかできていなかった。10月に入り散歩以外の喫茶店など接触が少ない場所への外出を少しずつ再開してきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては事務管理を行っているが、買い物等の支払いの際は、値段等を気にしながら買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話する機会はなかなかないが、送られてきた手紙やはがきはじっくり目を通されたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り物を一緒に作りながら、こんなきせつかあと季節を感じてもらえるようにしている。共有スペースでは、最低限の家具のみを配置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアではトラブルに発展しないように席替えは慎重に行っている。気の合った方同士自由にお話を楽しんだり、一緒に行動したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたものを入居時に持ち込んでもらったり、必要な物を好みに応じてご家族などに購入してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かりづらい方は、居室の床にトイレまでの案内をテープで示している。手すりなども設置して歩行を助けている。		